

## 鳥取県原子力安全顧問会議結果概要（速報版）

鳥取県危機管理局原子力安全対策課

- 1 日時 平成28年5月16日（月）9：30～11：10
- 2 場所 岡山市内（岡山TKPカンファレンスセンター）
- 3 出席者 【原子力安全顧問】 占部顧問（座長）、青山顧問、内田顧問、遠藤顧問、片岡顧問、神谷顧問  
西田顧問、藤川顧問、森山顧問 \*座長以外は五十音順  
【中国電力】 芦谷鳥取支社長、長谷川副本部長ほか  
【オブザーバー】 県衛生環境所長、米子市防災安全課危機管理室長ほか  
【事務局】 原子力安全対策監ほか

## 4 概要

- 平成28年4月28日に中国電力から鳥取県等に対して事前報告のあった「島根原子力発電所1号機廃止措置計画」及び、「同2号機特定重大事故等対処施設等」を議題として、中国電力から説明を受けた後、主に次のような質疑応答を行った。

## 〔1号機廃止措置計画〕

（顧問）津波の防災対策など、各廃止措置の段階に応じた防災体制を廃止措置計画に明確に規定すること。

→（中電）具体的な重大事故対策は審査の中で具体化していく。具体的な防災対策は保安規定変更認可申請の中で明確にしていく。

（顧問）事故想定及び評価を詳細に検討し、廃止措置計画にきちんと定める必要がある。

→（中電）事故想定、評価は原子力規制庁もきちんと審査すると言っており、しっかりと説明していく。

（顧問）事故想定において破損燃料からの核分裂生成物の放出率が30%とされているが、放出率の想定が小さいのではないか。

→（中電）米国の安全評価で使用している手法を参照して評価している。

（顧問）燃料プールの冷却水喪失時の評価について、全量喪失に加えて他のケースも評価した上で、最悪のケースの評価を示していただきたい。

→（中電）シナリオを検討中であり、様々なケースを想定し、審査の中でしっかりと説明するとともに、顧問にも説明させていただく。

## 〔2号機特定重大事故対処施設等〕

（顧問）第2フィルタベントの性能や配置はどうか。

→（中電）第1フィルタベントと要求事項は同じなので、同様の性能になる。配置は第1フィルタベントとは独立したものであるため、並列になる。

- 座長である占部顧問から、次のとおり総括コメントがあった。
- ・ 廃止措置は非常に長期に及ぶという観点と、その間何が起こるか分からないといった前提条件について、計画段階からイメージして、特に事故などにどう対応するのかということについてより詳細に検討して欲しいというのが今回の顧問の意見であった。
  - ・ 今後は、原子力規制庁の審査も順次進んでいくと思われるため、そういった状況も見ながら、継続して審議していく。
  - ・ 特定重大事故等対処施設等については、並行して整備していくということであっても、例えば中央制御室あるいは緊急時対策所と今回の施設の3者がうまく機能していくこと等に留意しながら今後は考えていただきたい。

注）本資料は鳥取県が取りまとめたもので、出席者の確認を受けたものではありません。